

## ◆ 財団主催シンポジウム開催のご案内 ◆

### 「ストップ介護離職2ー仕事を続けながら認知症の家族と暮らすー」

・開催日時：2016年11月11日（金）18:00～20:00

・開催場所：MY PLAZA ホール（明治安田生命ビル）

・プログラム：

●テーマ解説・問題提起「仕事と介護の両立と介護離職に関する調査結果」より：ダイヤ財団常務理事 樋渡泰典

●講演「認知症の理解とケアのあり方」：医療法人社団悠翔会 理事長・診療部長 佐々木淳氏

●パネルディスカッション

・テーマ：「仕事を続けながら認知症の家族と暮らす」

・コーディネーター：石橋智昭（ダイヤ財団研究部長）

・パネリスト：佐々木淳氏、坂本恵司氏・田中充夫氏（認知症の人と家族の会会員）、杉山想子氏

（株式会社やさしい手 部長）、前川博昭氏（三菱化学株式会社 人事部労制グループグループマネジャー）

参加申込みは、財団ホームページ(www.dia.or.jp)から。

## ◆ 学会発表・講演など ◆

（\*は財団研究員）

### 第75回日本公衆衛生学会総会（10/26～28, 大阪）

#### 【シンポジウム：高齢者の就業と健康】

石橋智昭\*：「高齢者が支え手側となる『生きがい就業』の有用性；介護予防の視点から」

#### 【一般発表】

①石橋智昭\*・牧野ひろこ\*・池上直己（聖路加国際大学）：「ケアの質を改善する介護 QI（1）；事業所の質の可視化への有用性検討」

②牧野ひろこ\*・石橋智昭\*・池上直己（聖路加国際大学）：「ケアの質を改善する介護 QI（2）；ケアプラン見直しに対する有用性検討」

③中村桃美\*・石橋智昭\*・長田久雄（桜美林大学）：「シルバー人材センターでの就業による生活機能改善効果；6センターでの調査結果から」

④早尾弘子\*・二宮彩子（文京学院大学）・石橋智昭\*：「育児期の女性の健康状態と受療行動の実態」

### 第11回日本応用老年学会大会（10/29, 大阪）

①中村桃美\*・石橋智昭\*：「シルバー人材センターのホワイトカラー出身会員の希望職群への就業の有無と退会」

②渡邊大輔（成蹊大学）・澤岡詩野\*：「ボランティアポイントプログラムは介護予防効果を持つのか；横浜での2年後縦断調査」

### 第17回介護保険推進全国サミット in おかやま（10/20～21, 岡山）

澤岡詩野\*がパネリストとして登壇：「高齢者の社会参加の実現～高齢者の多様な働き方・住まい方と社会参加の実現に向けて～」

### シルバー人材センター役職員研修会（9/6茨城県、10/19群馬県）で講演

石橋智昭\*：「就業による介護予防効果の見える化」

### 長岡市主催「うつ予防事業ファシリテーター養成研修」で講演

兪今\*：「幸せに対する誤解と真実及びファシリテーターの役割」（9/7）、「ポジティブアプローチの特徴と『フレーム』への理解」（10/19）

### 田園調布学園大学「高齢者の孤立予防のための心の健康講座」で講演

兪今\*：「笑顔で老後を過ごすためのコツ」（9/20）

## ◆ 書籍出版 ◆

中村桃美・石橋智昭（分担執筆）：『ジェロントロジー・ライブラリー②高齢期の就業と健康 何歳まで働くべきか』『第2章 -3 介護予防になる生きがい就業のかたち』社会保険出版社（10/10発刊）

石橋智昭（分担執筆）：『高齢者の社会参加を促す就労支援 社会的孤立予防のためのサービス体制の構築に向けて』『第5章 生きがい就業を支える社会システム』ミネルヴァ書房（10/25発刊）

## 表紙写真について 関東地方の寺院 国宝 木造建造物紹介 - 歓喜院聖天堂 - 文：榎本奎介

今回は埼玉県熊谷市妻沼にある<sup>めぬま</sup>歓喜院<sup>かんぎいん</sup>聖天堂<sup>しょうてんどう</sup>を紹介합니다。JR高崎線熊谷駅からバスで25分、聖天前下車ですぐです。

この寺は齋藤別当実盛公が当地の庄司として祖先伝来の御本尊様を治承3年（1179年）にお祀りしたのに創ります。御本尊聖天様は正しくは大聖歓喜天と称せられ福運厄除の神として信仰されています。御本殿は奥殿、相の間、拝殿よりなる廟型式権現造りで、奥殿は八棟造りです。建造物の各壁面を彫刻で装飾し、華麗な色彩が施されている江戸中期の貴重な文化遺構です。

御本殿の建築は妻沼の工匠兵庫正清の設計によって施工

され、細工始めから25年の歳月を費やし、その子正信に引き継がれ宝暦十年に完成しました。

平成15年より平成23年まで8年を要して保存修理工事が施され、外壁は創建当時の華麗な色彩が復元されました。平成23年6月1日に竣工奉告除幕法会を修行。以後一般公開。平成24年7月9日に正式に国宝に指定されました。

日光の流れを汲み、更に進んだすぐれた技術と庶民の浄財により作られたことは稀有なこととして評価されています。